

Jazz Interview vol.51

バルセロナ発、ジャズ・シーンを変える

注目のマルチ・ミュージシャン！

ジョアン・チャモロ【Joan Chamorro】

スペイン・バルセロナ出身のミュージシャンで、バリトン、テナー、アルト・サクソフーンやクラリネットも吹くマルチ管楽器奏者兼ベーシストでもあり、多くの若手ジャズ・ミュージシャンを輩出している“サン・アンドレウ・ジャズ・バンド”の主宰者でもあるジョアン・チャモロ。今年のクリスマスに教え子でもある話題の人気女性トランペッター&ジャズ・シンガー、アンドレア・モティスと共にブルーノート東京とコットンクラブで来日公演を控える中、バルセロナのジャズ・シーン、サン・アンドレウ・ジャズ・バンド、才能豊かな若手ミュージシャン、自身のジャズ人生等について語ってくれた。

【2017年11月 取材・文：加瀬正之】



Photo provided by Joan Chamorro

♪ 日本のファンはクリスマス時期に行われぬあなたとアンドレア・モティスのパフォーマンスをとでも楽しみにしています。今回はどのようなコンサートになりそうですか？

今回はたくさんのスタンダードやアンドレアのオリジナル曲、ブラジルの音楽も含めてほぼヴォーカルもののジャズになるだろう。何曲かはインバルスに吹き込んだ最新アルバム『エモーションナル・ダンス』から、次のレコーディングのために準備している曲も何曲か演奏する予定だよ。

♪ 日本はどんなイメージですか？

アンドレア・モティスとのカルテットで訪れるのは今度で4度目になるだろう。日本の思い出はいつも素晴らしい。偉大なテナー・サクソフーン奏者のスコット・ハミルトンと一緒に最初のツアーで回った都市を訪れるのが好きだったね。日本人の親切なおもてなしや我々が創造する音楽についてとても情熱的な日本人の熱意も好きなんだ。私は日本食も大好きで、個人的には尊敬心や日本の禅の文化も大好きだよ。

♪ サクソフーンとベースを演奏するようになったきっかけは？

18歳の時にサクソフーンを始めて、その時にもっと真剣に音楽に身を捧げるように決めたんだ。クラシックを学んだ頃にジャズも知って、この音楽と恋に落ち始めたんだよ（笑）。ベン・ウェブスター、デクスター・ゴードン、スコット・ハミルトン、レスター・ヤング、ハンク・モブレーやその他の数多くのミュージシャンの演奏を聴くことは本当にエキサイティングだった。最初はテナーとソプラノをたくさん演奏したけど、ペッパー・アダムスやサージ・チャロフ、ジェリー・マリガン、ハリー・カーネイを知って、バリトン・サクソフーンと恋に落ちたんだよ（笑）。私はカルテットやクインテットで演奏するも大好きだけど、ビッグ・バンドで演奏するのも好きなんだ。コントラバスに関しては、子供たちにジャズを教え始めた時、ベースを弾く者が誰もいなかったから私が弾き始めた。最終的に自分が演奏していたサクソフーン、クラリネット、フルートやホルネットに加え、ベースも弾くようになったんだ。

♪ 子供の頃はどんな音楽を聴いていたのですか？

子供の時はスパニッシュ音楽やフラメンコ等、父が聴いていた音楽を聴いていた。あと、兄弟の1人からビートルズやピンク・フロイドを聴いていたんだ。私はパコ・アイバニエズやジョアン・マヌエル・セラートのようなシンガー・ソングライター音楽も聴いていた。ギターも少し弾いたんだけど、その時は歌詞も含めて私自身のオリジナルを演奏していたんだよ。完全にアマチュアっぽかったけどね（笑）。ジャズを知ったのは、サクソフーンを演奏し始めた時でよかったよ。

♪ サン・アンドレウ音楽学院で講師になった経緯は？

サン・アンドレウ・ジャズ・バンドは長い12年の物語なんだ。サン・アンドレウの市立学校でスタートして、最初の6年間はそこで活動し、それから成長を重ねて、完全に私のプロジェクトになって学校を去らなければならなくなった。サン・アンドレウ・ジャズ・バンドには、7歳から21歳までの60人以上の若いミュージシャンが在籍してきたんだ。私にはいくつかの事柄に基づいて教える方法があるんだけど、最も重要なことは、特に古いジャズ：シドニー・ベジェ、ルイ・アームストロング、レスター・ヤング、ビリー・ホリデイ、ルー・ドナルドソン、デューク・エリントン、ジョニー・ホッジスなど、ジャズの起源からたくさんの音楽を聴くことなんだ。たくさん音楽を聴いて、それを真似て、楽譜を見ずに耳を通して繰り返し学べば、偉大なミュージシャンのメロディやソロの暗記によって楽器のテクニクを取得できるんだ。まあ、これが私の簡単な方法論だね。これがいいアイデアだと思うんだ。我々が偉大なアーティストの音楽を聴いて学ぶ時、彼等に恋してしまうことによって、楽器と音楽により多くの時間を費やしたくなる。若い人が8、9、10歳位でそれをする時、彼らは素早く行動し、音楽と濃密な関係を築くんだ。我々はジャズという音楽は大人だけの音楽、夜のための音楽であるという考えを止めなければならぬ。子供も音楽を聴いて楽しんで、もちろん演奏もできると信じなければならない。それこそが私が信じることで、だから私はそこに向かって努力しているんだ。

♪ あなたが出演しているジャズ・バンドのドキュメンタリー映画『A film about kids and music』は、残念ながら日本ではまだ未公開なのですが、この映画について聞かせて下さい。

この映画は2011年にサン・アンドレウ・ジャズ・バンドやその活動に関わる全てのプロジェクトの大半のビデオ監督を務めているラモン・トート監督が手掛けた作品なんだ。サン・アンドレウ・ジャズ・バンドは音楽のクラスから発生しているプロジェクトだよ。私の指揮によりビッグ・バンドは6歳から18歳までの子供たちを一堂に集め、クラシックジャズの豊富なレパートリーを学ばせて演奏をスイングさせたことで、観衆の注目を集めて、スペインで有名な幾つかの音楽ホールを満員にしたんだ。ユニークな教育方法で人々を熱中させ、ユニーク過ぎるあまり結果にも表れた道のりを追った作品で、子供たちのステージ上で魅せる才能によって我々にスリルを与え、我々のあらゆる感覚を揺さぶらせるんだ。これは彼等にしてかできないことだよ。この道りにおいて、ジェシー・デヴィス、テレル・スタッフォード、ワイクリフ・ゴードンが参加することになった。全てのジャズ音楽ファンが認めた彼等が若いタレントたちのスピリットを刺激したことによって、作品の中で僅か6歳のエルサが天使のようにトランペットを演奏しているんだ。

♪ あなたの教え子で本誌も注目している以下の4人のアーティストについて聞かせて下さい。

【Andrea Motis (Andrea Motis)】

Andreaの歌を聴いた時の最初の印象は、優しく素直で感情豊か。彼女のトランペットと即興の才能は歳を重ねるごとに進化していった。普通のことだけど、彼女はとも勉強熱心で、偉大なジャズ・ミュージシャンを聴くことに沢山の時間を費やしてきた。彼女はサン・アンドレウ・ジャズ・バンドで最初に歌った生徒で、それは『JAZZING 1』(現在7まであって、もう1枚制作中)に反映している。彼女が初めて歌ったのは13歳の時で、直ぐに『Joan Chamorro presents ...』のシリーズから第1弾を録音したく私は気に入ったんだ。

【Eva Fernandez (Eva Fernandez)】

Eva・フェルナンデスはともソウルフルな声の持ち主で、とても良いテンポを持っている。彼女のサクソフォンのサウンドはとても美しく、いとも簡単にビッグ・バンドのサクソフォン・セクションをリードするんだ。

【Magali Datzira (Magali Datzira)】

Magari・ダッチラはまるでピロー・ホリデイのように、とてもスイングなテンポ、メロディを創造するとても興味深い能力の持ち主で、とても個性的な声を持っている。特にサン・アンドレウ・ジャズ・バンドでの最後の時期はとも素晴らしいベーシストでもあり、我々の最新のレコーディングのいくつかの中にその記録が残っているよ。とても良いテンポでスイング感に満ちているんだ。

【Rita Payes (Rita Payes)】

Rita・ペイスはとも個性的な声と彼女自身をともジャジーにさせるタイム感で演奏する才能を持っているんだ。彼女の即興の能力は素晴らしく、とても勉強家で音楽に生活を捧げているから、日々良くなっている。

彼女たちは『Joan Chamorro presents ...』シリーズに皆自身のレコードがあって、4人が一緒に歌って演奏しているレコードもあるんだ。5作品のレコーディングをしたね。彼女たちの声を作り出した最初の魔術は、結果として偉大なアーティスト：Andreaがサラ・ヴォーン、Evaがダイナ・ワシントン、Magariがピロー・ホリデイ、そして、Ritaがエラ・フィッツジェラルドをトリビュートした4つの素晴らしいアルバムになった。サン・アンドレウ・ジャズ・バンドの現在は、アルバ・アーメンゴウ(トランペット、アルト、ソプラノ・サクセス)、エラ・バスティダ(バイオリン、テナー・サクセス)、アブリル・サウリ(ドラムス、トランペット)、アルバ・エスティバ(全てのサクセス、特にリリットとクラリネット)、ジョアナ・カサノヴァ(サクセス)、そして、少年のジョアン・マーティ(サクセス、フルート)等、新たなヴォーカリストたちがいるんだ。

♪ バルセロナの現在のジャズシーンはどうですか？

バルセロナのジャズシーンはとても豊かだよ。たくさんの才能ある若いミュージシャンがいて、年配のミュージシャンと共存する美しいプロジェクトもあって、ジャズの音楽的豊富さが広がっている。多分、演奏するためのジャズ・クラブやジャズ・フェスティバルはもっと必要だね。音楽的な雰囲気やバルセロナとその豊かな文化や快適な気候を持つ美しい都市に魅力されてたくさんのミュージシャンたちが外からやって来てるんだ。

♪ サン・アンドレウ・ジャズ・バンドの中で将来凄いベーシストになりそうな生徒はいますか？ また、他の楽器ではどうですか？

正に今、本当に素晴らしい演奏をするミケル・カサノヴァとトン・フェリスという2人のベース・プレイヤーがいる。彼らは2人ともとても才能豊かなんだ。実際にサン・アンドレウ・ジャズ・バンドのメンバーは全員とも素晴らしいミュージシャンになるだろう。現在、私は『Joan Chamorro presents ...』シリーズの新しいCDをトロンボニストのジョアン・コディナとレコーディング中なんだ。それと、オーケストラのサクソフォン・セクションと一緒に新しいアレンジで幾つかの新しいプロジェクトもやりたい。ピアノのジャン・ドメクともね。彼等は本当に素晴らしい演奏をしている。ヴィクター・カラスコは13歳で信じ難いほど素晴らしい



い即興演奏をするんだよ。まもなく一緒に新しいCDを作る予定のアルバ・アーメンゴウの声も本当に好きだね。私は心から彼等全員を信じ、彼等各々の未来の成功を信じているよ。

♪ 本誌のタイトルは1950~60年代にLAで活躍したジャズ・ベーシストのリロイ・ウィネガーのニックネームから付けているのですが、彼のアルバムを聴いたことがありますか？

リロイ・ウィネガー！彼のことはデクスター・ゴードンのレコード『ブローズ・ホット・アンド・クール』で知っているよ。リロイはともつもないベース・プレイヤーだね。美しいスタンダードでいっぱい彼のアルバムは、スイングに満ち溢れている。

♪ 音楽以外に特別な趣味はありますか？

映画鑑賞、ウォーキング、読書、庭いじり、そして、私が愛する人たちに大事にするところ。

♪ 夢や目標は何ですか？

私の夢は私の人生そのもの、そして、私の目標は自分なりの生き方。私がいつも生徒たちに言っているように、本当に大切なことは生き方であって、目標ではないんだ。

♪ あなたにとってジャズとは何ですか？

私にとってジャズとは私の人生そのものになった。ジャズはありのままでいるため、感じるため、愛するため、聴くため、創造するため、人とコミュニケーションをとるため、そして、ジャズを通してこの世界を少し良くするべく幾らか貢献するための方法なんだ。

♪ The Walker'sの読者と日本のファンにメッセージをお願いします。

The Walker'sの読者の皆さん、私の音楽、私のプロジェクトを知ってもらえる機会を与えてくれてありがとうございます！私の音楽があなたたちの生活に幸せの一部でもたらすことが出来るよう願っています。ジャズは素晴らしいもの、ジャズこそ人生なのです。だから私は社会の中の重要なものとして音楽を信じているし、子供たちは未来の社会なのです。だから私は尊敬、働くこと、謙遜のような教育価値の一つの方法として音楽は重要だと信じています。本当にありがとうございます！！

ANDREA MOTIS & JOAN CHAMORRO QUINTET

アンドレア・モティス & ジョアン・チャモロ・クインテット来日公演！



@ BLUE NOTE TOKYO
2017.12.23 sat, 12.24 sun
& 12.25 mon

@ COTTON CLUB
2017.12.26 tue & 12.27 wed

<https://www.facebook.com/JOAN.CHAMORRO.347173620293/>
<https://twitter.com/joanchamorro/>
<https://www.instagram.com/joanchamorro/>

* P31 にジョアン・チャモロのアルバム掲載！